

## 持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化に関する検討会(第5回)

### 1 開催日時等

- 開催日時：令和3年12月15日(水)15時30分～17時00分
- 場 所：(WEB会議による開催)
- 出席者：堀場座長、伊関委員、小池委員、辻委員、沼尾委員、星野委員、望月委員、八木委員、和田委員  
鷺見地域医療計画課長(厚生労働省・オブザーバー)  
渡邊官房審議官(公営企業担当)、坂越公営企業課長、犬丸準公営企業室長、目貫理事官、岡本理事官、田中課長補佐

### 2 議題

- ・公立病院等に対する地方財政措置等について
- ・「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の構成等について
- ・その他

### 3 配布資料

- (資料1) 第4回検討会の主なご意見
- (資料2) 複数自治体間の再編・ネットワーク化後の経営主体について
- (資料3) 公立病院経営強化に係る地方財政措置等における対応
- (資料4) 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の構成等について
- (参考資料1) 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の方向性について
- (参考資料2) 第4回検討会議事概要

### 4 概要

- ・議題に関する意見交換  
※意見交換の主な内容は別紙のとおり

## (別紙) 意見交換の主な内容

### 1. 地方財政措置について

- 医師派遣の派遣元への特別交付税措置について、不採算地区病院への派遣の場合にはもっと手厚くすることもありうるのではないか。また、一般会計繰出が行われず、派遣元病院に十分な措置がなされていないケースが見受けられるため、特別交付税措置の対象を派遣先病院に一本化することも検討してはどうか。

### 2. ガイドラインの構成等について

#### 【全体の構成等】

- 全体の構成、方向性については賛同。
- これから各論の検討に入っていくが、持続的な地域医療提供体制の維持という原点を忘れずに検討を続けていくことが重要。

#### 【役割・機能の最適化】

- 地域包括ケアシステムが机上の空論に終わることがないように、その実現に向けて果たすべき役割については、引き続き理念をしっかりと明記してほしい。
- 機能分化・連携強化について、誰が主体となってどのように進めていくかという仕組みを構築していくことが必要。
- 地域医療構想を踏まえた公立病院の果たす役割について、ステークホルダー相互の丁寧な議論と情報把握が行われるようにしてほしい。
- 公立と民間の病院統合の場合、給与格差が課題となることが多い。より融通の効く体制をとる余地はないか。
- 再編・統合により黒字化できれば良いが、なお赤字が残った場合、行財政改革の観点で課題となり得る。一定期間は過渡期として緩やかにとらえ、成果が出なければ更なる対応を求めるという考え方がとれないか。
- 新興感染症拡大時の対応に資する平時からの機能整備について、(新興感染症に限らず) 次の大規模な健康危機への対応にも資するということを明記してほしい。

#### 【組織・体制・マネジメントの強化】

- 経営形態の見直しを検討すべき旨を明記することは賛成。一方で、いまの経営形態でもできることを尽くすことも重要である。
- 全部適用済みは公立病院は4割程度であり、引き続き全部適用化を進める必要。地独法化は、都市部の大規模な病院では効果が高いが、地方の中小病院では、人材確保等の面で地独法化は難しい。
- 小規模な自治体では、地独法化するとガバナンスが効かなくなるケースがあることに留意が必要。
- 地域医療研修について、真に地域医療を学んでもらう機会とするよう、実効性を持たせる取組が必要。
- 大規模な病院から中小規模の病院への医師派遣は重要だが、医師の時間外労働規制により、大病院の側も医師を派遣する余裕が無くなっていくことが懸念される。要請や財政支援だけではなく、地域医療支援病院に対しては医師派遣について強制力を効かせるような仕組みも必要ではないか。
- 「特に大規模な病院については、中小規模の病院に対し、医師派遣等の支援を行うことが重要ではないか」とあるが、再編・ネットワーク化や役割の最適化、研修環境の整備等、中小規模の病院が取り組むべき事項についての記載もしっかりされるべきではないか。
- 医師の働き方改革について、例えば「準夜勤帯は医師会の医師が担当する」「近隣の診療所の医

師が月に何回か夜勤を担当する」など、地域全体で負担軽減を図る取組事例もあり、ガイドラインの中で紹介してはどうか。

- 時間外労働規制の導入により、大規模な病院においても今よりも更に医師が必要となり、派遣は容易でない。大規模病院における人事マネジメントの強化のほか、医療現場の目線で派遣先を不断に見直ししていけるようなシステムを作っていくことが重要。
- 医療提供の質の向上や患者数の増加のために、地域連携体制の強化が重要である旨を特出しして記載してほしい。

#### 【施設・設備の最適化】

- 建設費の抑制については、コンストラクションマネジメント、E C I（Early Contractor Involvement）方式、DB（デザインビルド）方式（設計施工一括発注方式）など、様々な新たな手法があり、検討することが必要。
- 業務効率化のためのICT導入（音声入力等）が遅れており、盛り込んでいただきたい。

#### 【経営の効率化】

- 経常黒字を目指すことは重要だが、地方部の中小病院や回復期病院等、現実的には黒字化が難しい病院もある。書きぶりに配慮が必要ではないか。
- 財政措置は簡素化していくことが必要。減価償却を的確にやっていくことが重要であり、プランにも記載すべき。
- 経営効率化に向けた具体的取組について、消費税率の引上げや人件費の上昇等により直営の方が低コストとなるケースが出てきているなど、時代の変化を踏まえた見直しが必要。
- 医療機器・検査機器について、保守はメーカーにしかできない。導入費用だけでなく、保守費用も含めた形で相見積もりをとることが必要。
- どの病院でも数値目標を設定して達成に向けて取り組んでいるが、職員の意識啓発が重要。単に経営意識だけでなく、病院の経営理念・ビジョン・コアミッションの共有が重要。
- 地域における公立病院の役割には、雇用創出、介護、教育など様々な機能がある。市町村や地域といった眼差しも盛り込んでほしい。そうした観点から許容されるべき赤字というものもあるのではないかと思うので、整理できると良い。また、（地域医療だけでなく）地域全体でのメリットという視座も必要。公立病院が地域にあることによるコストメリットをウェルビーイングの観点から評価する視座も必要ではないか。